

2025年4月25日

2025年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

持ち直し基調だが、米国関税に強い警戒感

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、3月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

○県内産業の現況（2025年1～3月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「建設」「住宅」の3業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種となった。

○『低調』および『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

○2025年4～6月期の見通しについては、「住宅」が『順調』から一段階下降して『普通』となるため、『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が12業種となる見通し。引き続き『低調』『不調』の業種はない。

○多くの業界で価格転嫁を進めつつ売上高を確保する動きがみられるとともに、消費関連業種では、賃上げによる所得環境の好転に伴う需要増が期待され、持ち直しの基調は維持している。ただし、自動車など製造業を中心に、米国政権の関税政策に対する警戒感が強まっており、先行きには暗雲が垂れ込めている。

○本調査と同時に実施したアンケート調査によれば、今年度におけるベースアップの実施状況を尋ねたところ、「実施予定」との回答が65.9%と6割を超えた。引上げ幅の平均は3.2%だった。

業 種		業 界 天 気	
		現況 (1-3月)	見通し (4-6月)
製 紙			→ 
食 品 ・ 飲 料			→ 
工 作 機 械			→ 
民生用電器部品			→ 
自 動 車 部 品			→ 
二 輪 車 部 品			→ 
建 設			→ 
住 宅			→ 
大 型 小 売 店			→ 
自 動 車 販 売			→ 
物 流			→ 
情 報 サ ー ビ ス			→ 
人 材 派 遣			→ 
観 光 ・ レ ジャ ー			→ 
外 食			→ 

※本件のお問合せ先 田原

〈5月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「トランプ政権の関税政策による県内製造業への影響 アンケート集計結果」
「2025年ゴールデンウィーク動向調査」
「静岡県内企業 夏のボーナス予想」
「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2025年4月）」

持ち直し基調だが、米国関税に強い警戒感

業界景気の現況（2025年1～3月期）

県内産業の現況（2025年1～3月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「建設」「住宅」の3業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』および『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2025年4～6月期）

4～6月期の見通しについては、引き続き『低調』と『不調』の業種はなく、「住宅」が『順調』から一段階下降して『普通』となるため、『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が12業種となる見通し。多くの業界で価格転嫁を進めつつ売上高を確保する動きがみられるとともに、消費関連業種では、賃上げによる所得環境の好転に伴う需要増が期待され、持ち直しの基調は維持している。ただし、自動車など製造業を中心に、米国政権の関税政策に対する警戒感が強まっており、先行きには暗雲が垂れ込めている状況。

業種ごとにみると、製造業では、主力の「自動車部品」が米国の動向に不安を抱えつつも前年の認証不正問題による落込みからの反動増により『普通』のまま推移する見込み。また、輸外型ゆえに同様の懸念のある「工作機械」も、人手不足や環境対応を背景とした堅調な需要に支えられ、『普通』との見通しは変わらず。生産のピークを前倒しして夏の需要期に対応する「民生用電器部品」、大型車需要が弱含み生産量は前年割れとなるが水準自体は高い「二輪車部品」でも、先行きは『普通』を維持する。業務用を中心に家庭紙の需要が堅調な「製紙」、販売単価の上昇により売上高の増加が見込まれる「食品・飲料」も『普通』のまま推移するとみられる。

非製造業では、価格転嫁を進めつつ売上を拡大する「情報サービス」が『好調』、公共のインフラ改修工事や製造業などの民間投資が堅調な「建設」が『順調』を維持する見通し。「住宅」については、4月からの省エネ基準引上げの法改正前に駆け込み需要が発生、その反動減が見込まれるため、見通しは『順調』から『普通』に下降する。衣料品は苦戦するも主力の食品などの値上げにより売上を確保する「大型小売店」、前年の認証不正問題による落込みからの反動で販売増が期待される「自動車販売」、食品や飲料で安定した荷動きが見込まれる「物流」、事務や観光、飲食業への派遣が堅調な「人材派遣」、大阪・関西万博の開催が県内誘客の向かい風になるもインバウンド増が予想される「観光・レジャー」、値上げ効果による売上増加を見込む「外食」は、引き続き『普通』の見通し。

2025 年 4 ～ 6 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気 現況 (1-3 月)	見通し (4-6 月)	売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
製 紙		→ 	➡	業務用を中心とした家庭紙の堅調な需要が継続
食 品 ・ 飲 料		→ 	➡	販売単価の上昇により、売上高は前年を上回る見通し
工 作 機 械		→ 	➡	外部環境の不確実性が高く、企業の設備投資判断が慎重化
民生用電器部品		→ 	➡	生産のピークが前倒しされ、出荷台数は前年比増
自 動 車 部 品		→ 	⬆	認証不正問題からの反動増で生産台数は前年比増加
二 輪 車 部 品		→ 	➡	主力の大型車が弱含み、生産量は前年を割り込む
建 設		→ 	➡	インフラ改修工事や製造業などの民間投資が堅調
住 宅		→ 	➡	戸建てで駆込み需要の反動減が生じ、前年を下回る
大 型 小 売 店		→ 	➡	食品などの単価上昇により、販売額は前年をやや上回る
自 動 車 販 売		→ 	⬆	認証不正問題からの反動で1割増を見込む
物 流		→ 	➡	食品や飲料で安定した荷動きが見込まれ、前年水準は確保
情 報 サ ー ビ ス		→ 	➡	売上高は拡大基調、コスト上昇分の価格転嫁が進展
人 材 派 遣		→ 	➡	事務関連、観光や飲食業への派遣が堅調に推移
観 光 ・ レ ジ ャ ー		→ 	➡	万博開催により、県内観光客は伸び悩む見通し
外 食		→ 	➡	集客になお鈍さが残るも、値上げ効果から売上高は前年比増

表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調	⬆	非常に増加 (+10% 以上)
	順 調		不 調	➡	増 加 (+3 ～ +9%)
	普 通			➡	横 ば い (+2 ～ △2%)
				➡	減 少 (△3 ～ △9%)
				⬆	非常に減少 (△10% 以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査『現況』推移

年 次	2022年			2023年				2024年				2025年
四 半 期	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ
対象月 (○は調査月)	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③
全業種の 平均階級値	2.53	2.80	2.93	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	3.07	3.20	3.20	3.33
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
(業 種 数)	好調	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	順調	1	2	2	3	4	3	2	2	3	3	3
	普通	3	5	7	8	7	11	12	12	12	12	11
	低調	10	7	5	4	4	1	1	1	0	0	0
	不調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(3月調査であれば1～3月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(3月調査であれば4～6月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
調査時点…2025年3月上旬
回答企業…県内主要15業種(138社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製 紙

業務用を中心とした家庭紙の堅調な需要が継続

【現況】

【見通し】

【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比

【1-3月期】家庭紙の生産量は、うるう年で稼働日が多かった前年と比べて、インバウンドの増加による影響で主力の食品向けが低調だったため、前年を下回った。

【4-6月期】家庭紙の生産量は、業務用需要が堅調に推移し、前年並みの高水準が目みられる一方、段ボール原紙については、消費者の節約志向により前年を下回る見通し。ただし、売上高は家庭紙を中心とした値上げにより前年比増が見込まれる。

現 況

見 通 し

国内紙・板紙生産量(前年比)(%)

資料：経済産業省

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受 注 残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1～1.0ヵ月

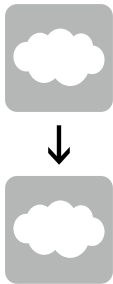
操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受 注 残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ 月
89～80%	需要超過	過 少	上 昇	上 昇	
79～70%	均 衡	適 正	横 ば い	横 ば い	
69～60%	供給超過	過 多	下 降	下 降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製紙

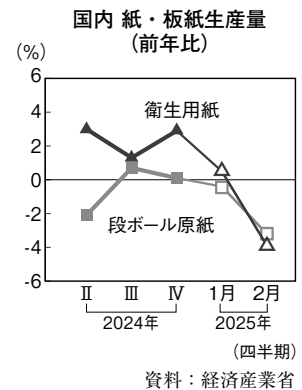
業務用を中心とした家庭紙の堅調な需要が継続

【現況】
【見通し】



【1-3月期】家庭紙の生産量は、うるう年で稼働日が多かった前年の水準こそ下回ったが、実勢としてはインパウンドの増加による業務用需要の高まりから高水準が続いた。段ボール原紙は、消費者の節約志向の影響で主力の食品向けが低調だったため、前年を下回った。

【4-6月期】家庭紙の生産量は、業務用需要が堅調に推移し、前年並みの高水準が見込まれる。一方、段ボール原紙については、主力の食品向けが根強い消費者の節約志向により低調であることから、生産量は前年を下回る見通し。ただし、売上高は家庭紙を中心とした値上げにより前年比増が見込まれる。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.0ヵ月

食品・飲料/製茶

販売単価の上昇により、売上高は前年を上回る見通し

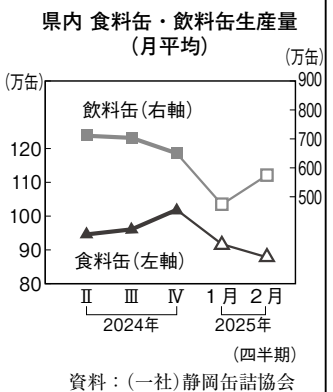
【現況】

【見通し】



【1-3月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年を上回った。生産量は前年を下回ったものの、販売単価の上昇が売上増加に寄与した。飲料缶類の生産量は、飲料需要が弱含み、前年を下回った。製茶：製茶問屋の売上高は、リーフ茶需要が低調で前年を下回った。

【4-6月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年をやや上回る見通し。ツナ缶の生産量は前年並みで推移するものの、販売単価は上昇する見込み。飲料缶類の生産量は、需要が上向き、前年をやや上回る模様。製茶：新茶期を迎えるが、量販店や専門店向けの需要が低調で、製茶問屋の売上高は前年を下回る見通し。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比

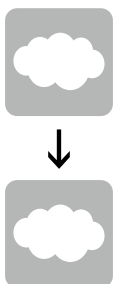


操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

工作機械

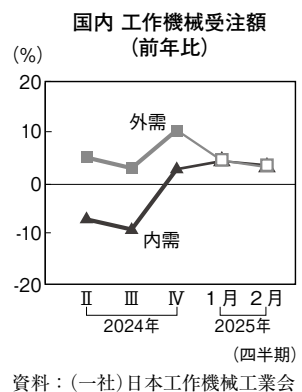
外部環境の不確実性が高く、企業の設備投資判断が慎重化

【現況】
【見通し】



【1-3月期】全国の受注額は、前年をやや上回った模様。外需は、主力の中国向けが当局の設備更新促進策を受け全体を押し上げており、インド向けも好調だった。内需は、前年比プラスながらも低水準のままで、外需比率の低い県内中小メーカーは、低空飛行が続いた。

【4-6月期】全国の受注額は、前年をやや上回って推移する見通し。人手不足や環境対策を背景に、企業の設備投資意欲は高まっており、総じて回復基調が続くとみられる。一方、コスト高の深刻化に加え、米国の通商政策の影響が不透明で、メインユーザーの自動車産業を中心に、設備投資を見直す動きも懸念される。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~10.0ヵ月

民生用電器部品

生産のピークが前倒しされ、出荷台数は前年比増

【現況】



↓

【見通し】



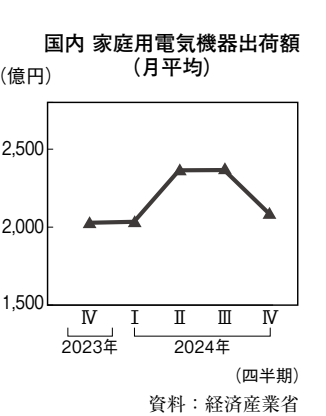
【4-6月期売上高】

前年同期比	1-3月期比
→	→

【1-3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや上回って推移した。広い地域が大雪に見舞われたこと等から暖房需要が旺盛だった。業務用エアコンの出荷台数は、国内向けが堅調で前年を上回った。こうした中、県内部品メーカーの受注量は前年をやや上回った。

【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや上回る見通し。完成品メーカーは、生産のピークを4月に前倒しして、夏に向け生産量を調整していく模様。業務用エアコンは、国内向けの受注が順調で、前年を+2割程度上回るとみられる。県内部品メーカーの受注量も、前年を上回る見通し。

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0~3.0ヵ月



自動車部品

認証不正問題からの反動増で生産台数は前年比増加

【現況】



↓

【見通し】



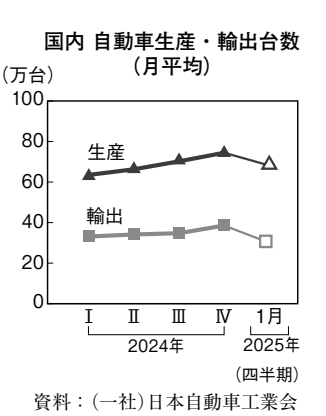
【4-6月期売上高】

前年同期比	1-3月期比
↗	→

【1-3月期】全国の自動車生産台数は、前年を+2割程度上回った。前年の認証不正問題からの反動増に加え、モデルチェンジが奏功した。一方、前年の落込みが軽微だった県内部品メーカーでは、スズキの工場が稼働停止した影響もあり、受注量は伸び悩んだ。

【4-6月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を+1~2割上回る見通し。物価高による国内需要の低迷や、トランプ政権の関税政策、中国・東南アジア地域の対応などが販売台数に影響を与えそうだが、認証不正問題で落ち込んだ前年からの反動増を見込む。県内部品メーカーの生産量は、小幅ながら前年を上回る模様。

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	横ばい	上昇	0.5~3.0ヵ月



二輪車部品

主力の大型車が弱含み、生産量は前年を割り込む

【現況】



↓

【見通し】



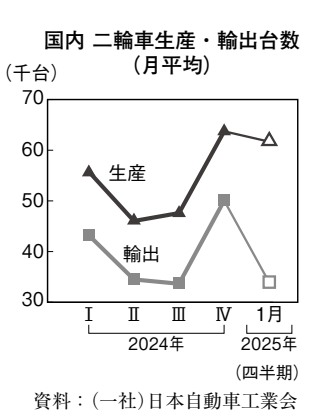
【4-6月期売上高】

前年同期比	1-3月期比
→	→

【1-3月期】全国の完成車生産台数は、前年をわずかに上回って推移した。軽二輪車が大きく減少した一方、原付第一種で想定を上回る駆込み需要があった。県内生産の主力となる小型二輪車は堅調に推移しており、県内部品メーカーの受注量は前年をやや上回った模様。

【4-6月期】全国の完成車生産台数は、前年をやや下回る見通し。原付第一種は、前年同時期から駆込み需要が発生しており、さらなる上積みは見込み難い。主力の小型二輪車は、先進国でコロナ以降のアウトドア需要が一巡、大排気量のモデルは弱含みで推移しそうである。県内部品メーカーの生産量は、前年を割り込む見通し。

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0~2.0ヵ月



建設

インフラ改修工事や製造業などの民間投資が堅調

【現況】



【見通し】



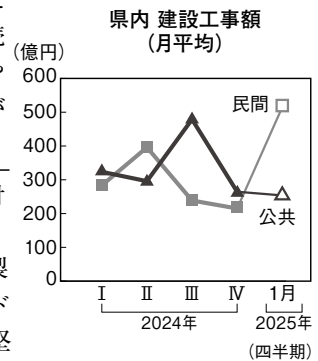
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の公共工事契約高は、前年を上回った模様。道路や橋梁、港湾などのインフラ関連の発注が続き、全体を押し上げた。民間の工事費予定額は、工場や物流倉庫、ドラッグストアなどの商業施設の建設需要が底堅く、前年並みの水準を維持した。

【4-6月期】県内の公共工事契約高は、引き続き災害対策や老朽化に伴うインフラ改修工事の発注が見込まれ、前年並みで推移する見通し。民間の工事費予定額は、製造業などで引き続き需要が見込まれるほか、インバウンドの回復を背景に、ホテルなど観光関連施設の改修需要も堅調で、好調だった前年並みの水準を確保する見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	需要超過	—	上昇	上昇	6.0~18.0ヵ月

住宅

戸建てで駆け込み需要の反動減が生じ、前年を下回る

【現況】



【見通し】



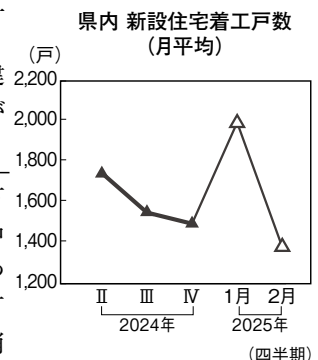
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや上回った模様。新築住宅の省エネ基準が引き上げられる4月の法改正前に、着工を前倒しする動きがみられ、戸建て住宅を中心に着工件数が増加したほか、駅前再開発が進む藤枝市などで賃貸物件の着工が伸びた。

【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回る見通し。貸家や分譲マンションは再開発エリアを中心に前年水準を確保できる見通しだが、戸建て住宅については、前期の駆け込み需要の反動から、例年の水準を下回りそう。住宅価格の高止まりや物価上昇が続く中、消費者のマインドを上向かせる材料は乏しい状況。



資料：国土交通省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	3.0~12.0ヵ月

大型小売店

食品などの単価上昇により、販売額は前年をやや上回る

【現況】



【見通し】



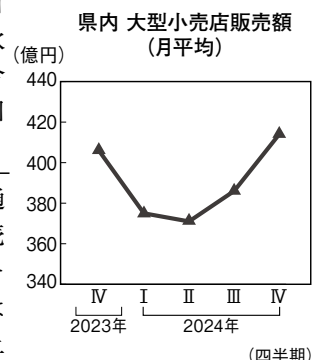
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の総販売額は前年を上回った模様。百貨店では、衣料品は前年水準に届かなかったものの、飲食料品が堅調で、販売額は前年をやや上回った。総合スーパーも、米や青果の単価上昇が寄与し、前年を上回る販売額となった。

【4-6月期】県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。賃上げによる所得環境の好転を受け、百貨店の販売額は低調だった前年をやや上回る見通し。総合スーパーの販売額も、前年をやや上回るとみられる。販売数量は減少しそうだが、酒類や加工食品など多くの品目の値上げが予定されている。



資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

自動車販売

認証不正問題からの反動で1割増を見込む

【現況】



【見通し】



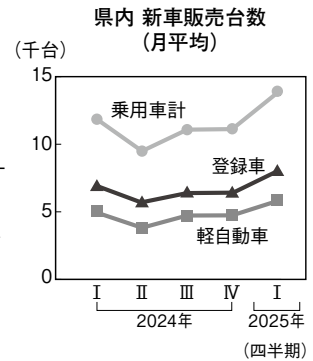
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の新車販売台数は前年比+16.5%で、2ケタの伸びとなった。前年は認証不正問題でダイハツの販売台数が大きく落ち込んでいたが、今期は供給体制も整ったことが主因。他メーカーでも、法令対応のマイナーチェンジ車の投入が販売面でプラスに寄与した。

【4-6月期】県内の新車販売台数は、前年を1割ほど上回る見通し。前年同期はダイハツ以外のメーカーでも認証不正が発覚して販売が低調だったが、全メーカーで問題は解消しており、新車効果が顕在化する見込み。賃上げなど所得環境好転はプラス要因だが、米国の関税発動等による経済環境の急変が購買意欲を削ぐ懸念がある。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	過少	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

物流

食品や飲料で安定した荷動きが見込まれ、前年水準は確保

【現況】



【見通し】



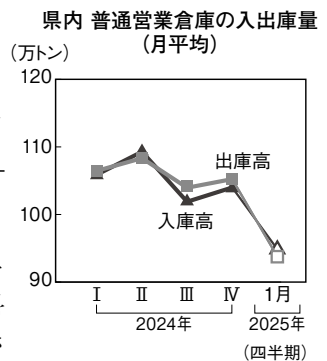
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移したとみられる。紙・パルプや食品が堅調だった模様。普通倉庫の入出庫高は、前年を△5%程度下回ったとみられる。電気機械の荷動きは底堅かった一方、飲料が低調に推移した。

【4-6月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移する見通し。ウエートの高い輸送用機器のほか、飲料や食料品など消費関連を中心に堅調に推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、電気機械や食品、飲料で安定した荷動きが見込まれ、前年並みの水準は確保できるとみられる。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	横ばい	上昇	—

情報サービス

売上高は拡大基調、コスト上昇分の価格転嫁が進展

【現況】



【見通し】



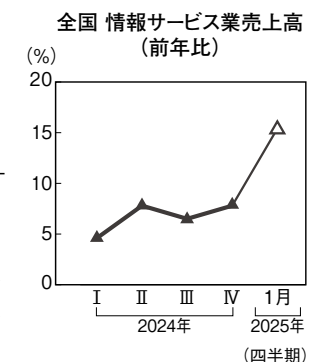
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した。全国的に受注環境は底堅く、主力の受託開発ソフトウェアを中心に売上高は堅調に推移した。県内でも、自治体や民間企業の旺盛なデジタル化需要を取り込み、収益を伸ばした企業が多くみられた。

【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年を上回って推移する見通し。県内では、新年度を迎えて、システム基盤の更改などIT設備投資が増加しており、引き続き安定した受注環境が見込まれる。一方、人件費や外注コストがさらに上昇するとみられ、サービス価格への転嫁が一段と進みそうである。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
89~80%	需要超過	—	—	上昇	1.0~3.0ヵ月

人材派遣

事務関連、観光や飲食業への派遣が堅調に推移

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

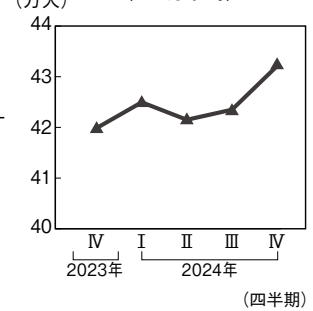
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を若干上回った模様。メインの事務職需要は底堅く推移するとともに、観光関連はインバウンドの増加、飲食業も恒常的な人手不足を背景に堅調に推移。製造業も、自動車業界の需要増を受け、前年をやや上回った。

【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を上回る見通し。事務職は底堅い需要が見込まれ、人手不足が深刻な観光や飲食業も引合いは強い。製造業は、認証不正問題で低迷した反動増から需要が戻るとみられるが、トランプ政権の関税政策による悪影響が懸念材料。賃上げ機運を背景に、派遣料金の引上げに期待。

全国 派遣社員の実稼働者数
(3カ月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

万博開催により、県内観光客は伸び悩む見通し

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

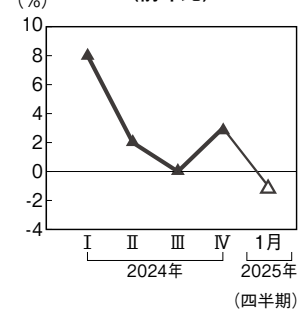
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回ったとみられる。インバウンドが前年を上回った一方、国内旅行者は伸び悩んだ。宿泊単価の上昇が売上高を底上げしたが、人件費をはじめとしたコスト上昇分を補うには至らず、収益面では厳しい経営環境が続いた。

【4-6月期】県内主要旅館の売上高は、前年同水準にとどまる見通し。4月の大阪・関西万博の開催に伴って同地域に観光客が流れ、来静者数は伸び悩むとみられる。インバウンドは好調を維持するとみられるが、国内旅行者は物価高の影響で旅行マインドの好転は見込みにくい状況。

県内 宿泊者数
(前年比)



資料：観光庁

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

集客になお鈍さが残るも、値上げ効果から売上高は前年比増

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

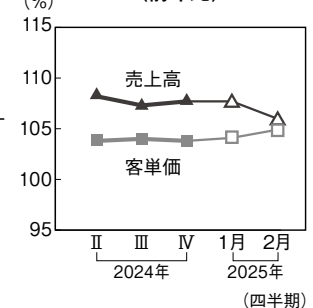
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、値上げによる客単価の上昇を主因に、前年を上回った。また、物価高による消費者の家計負担の増加から、外食控えがみられたものの、年末年始の日並びが良かったことや、前年に比べて雨が少なかったことが客数を下支えた。

【4-6月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、既往の値上げ効果が寄与し、前年実績を上回る見通し。ただし、多くの飲食料品が値上げされる中、県内業界では消費者の節約志向がさらに高まって外食が敬遠されるという懸念が強まっており、集客には苦戦することが予想される。

全国 外食売上高・客単価
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	横ばい	—

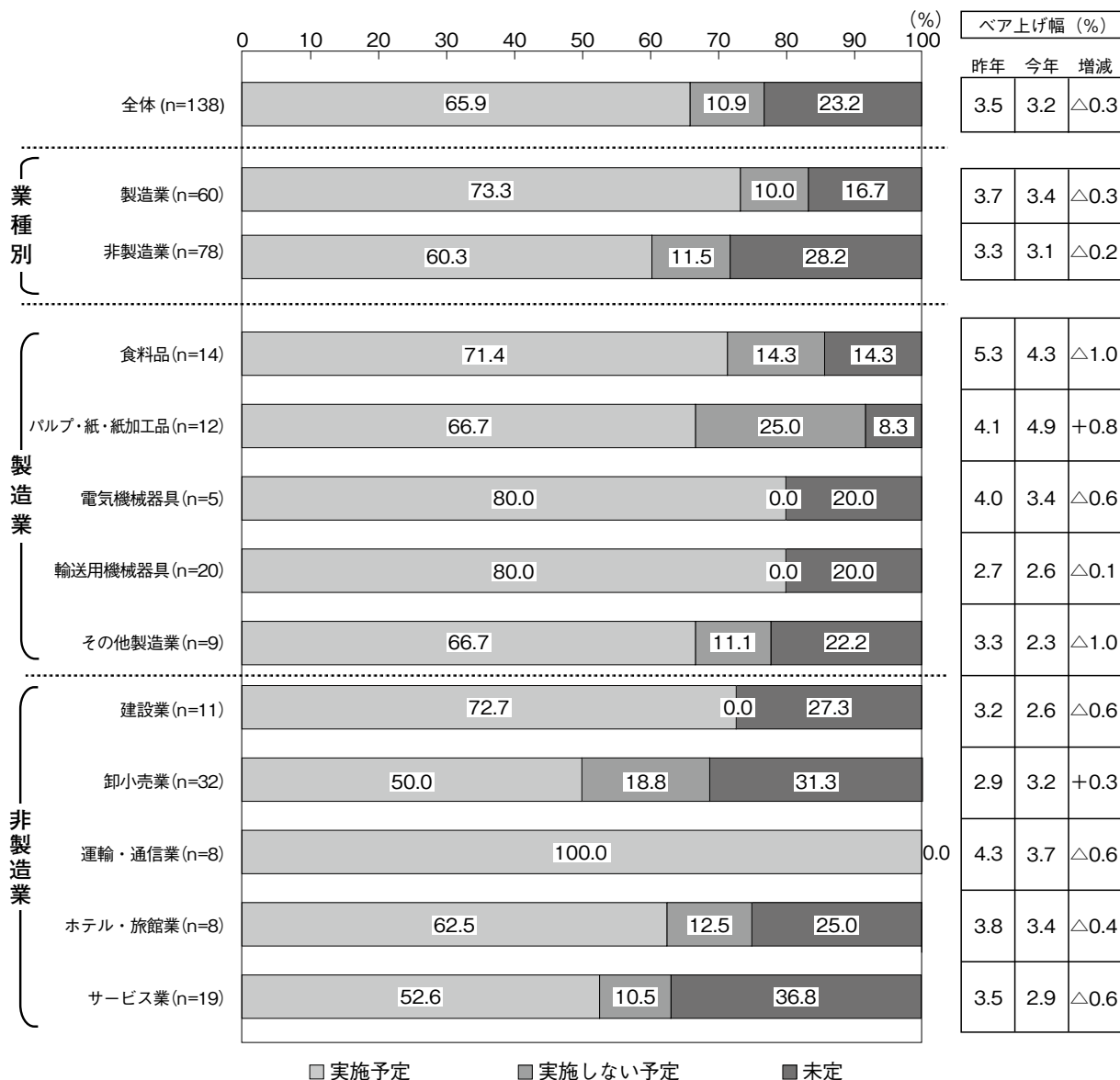
特別調査 県内企業における賃上げの実施状況

6割超がベアを実施予定、引上げ幅の平均は3.2%

県内企業に、今年度におけるベースアップの実施状況を尋ねたところ、「実施予定」との回答が65.9%と6割を超えた（図表）。とりわけ製造業では同割合が73.3%と、およそ4社に3社が給与水準を引き上げる見込みである。

ベースアップの引上げ幅については、全体平均は3.2%（前年比△0.3ポイント）で、業種別にみると、「パルプ・紙・紙加工品」（4.9%）や「食料品」（4.3%）などで引上げ幅が大きい様子がうかがわれる。また、人手不足が深刻な「運輸・通信業」では、全社がベースアップを実施予定と回答、引上げ幅も3.7%と全業種平均を上回った。

図表 今年度における賃上げ（ベースアップ）の実施状況



調査要領：調査時点2025年3月、調査対象企業583社、回答社数138社、有効回答率23.7%